



フィグ・ヤーパン通信

第 37 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.37

発行日 2009 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年 11 月に、ビリーの著作の中でも最も重要な一冊とされる新刊書『Kelch der Wahrheit (邦題：真理の杯)』が遂に完成し、FIGU スイスのサイトを通じて公開されました。フィグ・ヤーパンでは、日本の読者の皆様にもすっかりお馴染みになりました、FIGU スイスのリッカウアー夫妻を日本に招いて、『真理の杯』に関連した講演会を来る 3 月に開催します。さらにフィグ・ヤーパンでは、本年から本書の翻訳校正作業を本格的に開始いたします。なお、本書の出版に先立ち、『宇宙の深遠より』『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』の再版に加え、『アラハト・アテルザータ』『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(5)』の新刊を予定しています。『真理の杯』につきましては、2010 年の早い時期の出版を目標として作業を進めてまいります。

本年は、これまでで最も多くの書籍の出版が予定されている一年となります。フィグ・ヤーパンでは、読者の皆様に 1 冊でも多くの書籍をお届けできるように、精一杯努力していく所存です。これまでのご支援に感謝いたしますとともに、引き続きフィグ・ヤーパンの活動にご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、本年が読者の皆様にとりまして実り多い年となりますよう、祈念いたします。

2009 年元旦
フィグ・ヤーパン一同

2009 FIGU-JAPAN 講演会のお知らせ

今年も FIGU スイス基幹会員のリッカウアー夫妻を日本に招いて講演会を開催いたします。講演会は、全国の読者の皆様が一堂に会する貴重な機会ともなっています。会場手配の都合により、事前のお申し込みをいただいております。お手元の返信はがきまたはメール、FAX にてフィグ・ヤーパン宛にお申し込みください。

開催日 2009 年 3 月 15 日 (日)

プログラム

12:50 開場

13:00 開演

1. 「連想」(シモーネ・リッカウアー)

2. 「真理の杯」(シュテファン・リッカウアー)

16:00 閉演

※ 16:30 から懇親会を行います。(18:00 終了)

会場 日本青年館会議室

東京都新宿区霞ヶ丘町 7 番 1 号

電話 03(3401)0101

JR 総武線 信濃町駅または

千駄ヶ谷駅より徒歩 9 分

参加料

講演会のみ 3,000 円

講演会と懇親会 3,500 円

(参加料は当日徴収いたします。)

新刊書『宇宙の深遠より 一プレアデス／プレヤール人とのコンタクト』のご案内



宇宙の深遠より 一プレアデス／
プレヤール人とのコンタクト
(水瓶座時代出版刊)

装丁：A5判ハードカバー

頁数：500ページ(口絵20ページ、
本文480ページ)

定価：3,000円(税込み)

発売：2月発売予定

※重量はホームページまたは次号のフィ
グ・ヤープン通信誌面にてお知らせいた
します。(現時点で注文は受け付けており
ませんのでご注意ください。)

徳間書店より2001年7月に出版された『宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト』につきまして、徳間書店及びフィグ・ヤープンの在庫が底をつき、増刷も行わない事が決まりました。品薄の状態が続き、読者の皆様にはご迷惑をおかけしておりました。この度、書籍のタイトルを『宇宙の深遠より 一プレアデス／プレヤール人とのコンタクト』と改めた改訂第二版を、水瓶座時代出版より出版できる運びとなりました。2月以降に販売を開始いたしますので、どうぞご期待ください。

ここでは、本書に収められた一節「仲介者としての私の役目」より、一部を紹介します。

.....

私は使命を担う者としてふさわしいのかと、今までの生涯で何度も自分自身に問いただしてきた。まだ学習過程にあった頃は、一度ならずこの問いかけを繰り返したものだ。すべては遠い過去の話で、子供時代や青年時代の出来事であるにもかかわらず、今でも自分に問いただすことが時折ある。しかしその度ごとに、私は正しいことをしているという同じ回答にたどり着くのだ。必要な認識と経験などをすべて身につけるために、学習過程を歩まなければならないという結論に。もしそれがなかったら使命の遂行に私はふさわしくないだろうし、そのようにして獲得した知識と能力と様々な経験などがなかったら、私には使命を果たす資格がないだろう。そして、実際この文章を書き始めた時も、改めて私自

身を厳しく査定し、このような文章を世に問う資格が果たして私にあるのか、だとしたらどうやってなすべきかと、自分に問いただしたのだ。そしてたまたま、私がしていることは正しいのだと認識せねばならなかった。

私は学者として天賦の才があるわけではなく、すべての知識と能力と体験を努力して手に入れなければならなかった。そのために当然ながら、一度ならず無知な新参者としてカモになり、さんざんだまされ、搾り取られ、馬鹿にされ、利用され、まったくの間抜け扱いをされた。だから、どうしてまた私が、かくも絶望的に馬鹿で不注意だったのかと、ずいぶん多くの人から問われた。私をこっぴどくやっつけた末に私腹を肥やし、陰険にも私をせせら笑うような人々が言うことに熱心に耳を傾け信じるとは、何ということだと言われたのだ。また別の人間は、スファートやアスケットなどの良き指導者を得ていながら、どうしてまたこれほど馬鹿げたことが起こったのかと聞いた。これに私が答えられるのはただ、私は決して真綿にくるまれて、人生の否定的なことや邪悪なことから保護されていたわけではない、ということだ。彼らの援助はあったものの、当然ながら私は自分の人生の全容にわたって自分で責任をとる必要があったからだ。私は自分の人生を自分で生き、人生の経験を自分で積み重ねなければならないのだ。それに、特に多くの困難や苦勞の真っ只中にいた頃は、一体こんな私から誰が何を学ぼうというのかと、しばしば自問せずにはいられなかった。私は、自分の衰れさ加減に弱気になって、何度も命を失う瀬戸際まで行った人間だ。お人好しのために大損害を被るような人間から、誰が学ぼうというのかと、何度も自分に問うたのだ。しかしその度に、この学ぶ道を私はたどらなければならない、知識と能力と経験を増す道は他にはないことを思い知らされた。その結果、同僚と呼ぶべき者がいないため、私は孤立した。そこで新たに湧いてきた疑問は、誰がまたこんな独りぼっちな孤独な人間から何かを学びたいと思うか、というものだった。しかもそれは、身の毛のよだつほど手厳しい言葉で世間に向かって真理をわめいたり書いたりする人間だから、聞きたくても読みた

でも、その気が失せてしまうに違いない。だがそれでも私は、無理解で無知な者、間違っただけに導かれた者、独断的な者、知ったかぶり、批判家、狂信者、中傷者、陰謀家、下劣な者、そして独善者にあふれた世の中に対して、本当の真理を厳しく攻撃的な言葉をもって怒鳴り込むのは大事だと、繰り返し思わずにいられないのだ。これらすべての者たちの眼前に本当の真理を提示しなければならない。厳しい真理の言葉によってこそ、初めて何が本当の真理かわ

かるのだ。それが自分に向けられていると感じ、当惑し、そして考え始める。さもないと考えることもないからだ。足を踏まれれば攻撃心が目覚め、そこから物事を考え始めるのが人間の常である。だから私は厳しい言葉で真理を彼らの耳の中に怒鳴り、また厳しく書かれた言葉で真理を彼らの目の中に飛び込ませる。たとえ彼らが私のことを世界一のできそこないだ、大間抜けだ、馬鹿だ、などとものしつても、それを止めるつもりはない。

気候破局と環境破壊は将来地球人に何をもちたらすか ある予告

地球のすべての人間よ、あなたがたは自分たちの禍福に、地球の気候に、そして自分たちの惑星に対して責任がある。すなわち、あなたがたは自分自身とすべての被造物の生命に、動物と植物に、全自然に、生い茂り、地を這い、そして空を飛ぶすべてに対して責任がある。あなたがたは個人としても、人類全体としてもすべてに対して責任がある。およそあなたがたの思考や感情の中に生み出されるもの、またあなたがたの行為によって引き起こされるものに対して責任がある。あらゆる民族の人間は、およそ地球上とあなたがたの現存に生じるすべてのものに対して責任があり、その最前線にあなたがたの官庁と政府がある。あなたがた全員に、地球の一人ひとりの人間に、そしてあなたがたの官庁と政府の責任者に、以下の警告の言葉を伝える。すでに1951年、1958年および1964年、そしてこの他の時点でも、私の預言と予告により世界中の官庁、政府、新聞社、組織および放送局は、将来地球上とあなたがた人間のもとで起こるであろう喜ばしくないことについて注意を喚起された。その当時はまだ告げられた脅威のうち一部は変更できる時間があったが、残りの部分は発生せざるを得なかった。それらはもはや変更できなかったからである。そこで予告および預言されたすべてのことについて言えば、1950年代と1960年代の預言および予告は、その後のすべての預言および予告と同様に、21世紀最初の今日までの8年間に実現してきた。だが、私の預言と予告が実現したにもかかわらず私の警告に注意が払われることはなく、そのため告げられた害悪が地球全体に

蔓延^{まんえん}し、今なお増え続けている。この時ごくわずかな人間だけが実際に私の以前の預言および予告による警告を深刻に受け止め、今も深刻に受け止めているが、大多数の地球人は気にかけず、今日も意に介することなく真理を足蹴^{あしげ}にしている。あなたがたは自分たちの社会や惑星で起こるすべての害悪とすべての破局に対して、自身に罪があることを知ろうとも理解しようともしない。たしかに地球上ではこれまでも地震、海震、山崩れ、洪水、暴風雨、早魃^{かんぼつ}、噴火、その他の自然災害が繰り返し発生してきたが、それは自然が太古以来そのように活動してきたからである。しかし今あなたがたはこれらすべての害悪を自分たちの罪で、もはや食い止められないほど巨大な規模に増大させてしまった。あなたがた人間の上に轟くすべての害悪、たとえば犯罪、疫病、戦争、飢餓、非人道性、気候破局などの主たる原因は、ものすごい規模の人口過剰にある。あなたがたはその人口過剰を厳格な出産停止措置で阻止せず、無責任にもさらに増大させている。そしてこれほどの規模の人口過剰が、出現するありとあらゆる種類の害悪と破局の原因であり、人類の数が増えるに連れてすべての害悪、不遇、大変動、そしてすべての災厄が止むことなく増大するのである。こうして未来はあなたがた地球人にさらに多くの不都合、運命の打撃、そして悲惨、困窮、不利益、動揺、悲運をもちたらし、それらは多くの途方もない破局に拡大するだろう。なぜなら、この惑星の自然は人口過剰の狂気と、それに伴う気候、自然およびさまざまな生命の破壊に、これまでも増して激しく反撃するだろう

からである。あなたがたの惑星の自然が、至る所であなたがたを潰走^{かいそう}させる時はすでに来ているが、それは最近数十年間におけるあなたがたの影響と罪で破壊された環境によっていっそう苛酷なものとなった。すでに今日すべての民族が破壊された環境と気候破局の結末から逃走しているが、無責任な科学者や知ったかぶり屋は今もってこれを些細なことと見なし、それどころか完全に否定しさえしている。多くの人間、さらにはすべての民族は、産業事故の危険な影響からも逃げている。住民や民族全体が次第に広がる砂漠地域から逃げ、上昇を続ける海面から逃げ、あらゆる種類のアミューズメントパークやスポーツ施設による田畑や山の破壊から逃げ、そしてまた生命に必要な空気が有毒な排気ガスによって健康にとって有害に汚染されていることから逃げる。土壌が荒廃して食物栽培ができなくなり、土壌がますます不毛になるので、飢えも人間を逃走させる。さらに先進工業国の援助機関の無責任な援助により第三世界のいろいろな住人に余るほど食料が支給されるため、それらの食料を受け取った者はもはや食物の栽培をしなくなる。たとえ援助を受けた者が食物を栽培したとしても、彼らの生産物は売ることができない。自分たちの手で作った産物は先進工業国の援助機関から送られる食料よりもはるかに高いからである。

北極と南極の氷山や氷河の融解の結果として海面が上昇するだけでなく、海岸の浸食が進んで土地が失われていることも、ますます多くの住民や民族全体を逃走させている。次第に海水に浸かり、最後には完全に海面下に沈む島の住人は特にそうである。気候と産業に起因する害悪と破局の結果逃走する大量の人間はまさしく環境難民であり、またそう呼ばれて然るべきであるが、その数は数年後には3500万人に増えるだろう。しかしこの数字は今後わずか数年しか当てはまらない。なぜなら犯罪的とも言うべき止むことのない過剰な人口増加によりその数は増え続け、わずか45～50年後には地球のすべての国と人類は2億人の環境難民を抱えることになるからである。環境難民の他に、政治、人種、宗教あるいは社会的な理由などで迫害される難民の数も非常に多く、今後数年間で約3000万人に増加するだろう。

増え続ける人口過剰の狂気に関連して、環境汚染の影響は次第に激しさを増して破局に向かう。飲料用水はますます毒に汚染され、たとえばアジアではヒ素によってすでに毎年何千という人間が命を落としている一方、他の国では飲料水がますます乏しくなり、ついには枯渇する。また別の場所では人間の生存空間が危機にさらされて破壊される。なぜなら熱帯林が伐採され、その結果激しい気候変動が生じ、砂漠化によってそれまで人間が住んでいた地域にまで砂漠が押し寄せて住んでいられなくなる。河川などでも魚がいなくなり、動物種が絶滅し、多くの動物の生息空間が失われる。また多くの肥沃な土壌や草原、耕地や緑野がコンクリートで固められて自然が破壊される。これは特にホテルやリゾート施設、ロープウェイやスキー滑走路、さらに山中の軍事演習場の建設に見られる。この他にも無責任にも山腹、湖畔、川岸に人間の住居やレクリエーションセンターなどが建造される。大気はCO₂を含んだ排気ガスによって汚染されるが、これは主として過剰な自動車から排出される。それらの自動車は旅行や通勤や買い物に公共の交通手段を使わない人々が利用し、さらには無意味なドライブや簡単に歩いて行ける所でも乗り回す。さらに化石燃料で運転されるすべての暖房や工業設備も挙げられる。それらは不十分なフィルターを装備したところで、1時間に数トンものあらゆる種類の汚染物質や粉塵や毒物を大気に放出する。そして空気中に飛散した汚染物質や毒物は再び地面や地中や水中で沈殿し、それによって全植物界や人間を含む全動物界が汚染される。野菜や果物も、収穫量と利益を上げるために、有毒なスプレー剤や肥料によって汚染される。

世界中すべての大陸が自然破壊と環境破壊、気候破局と地球資源の搾取に見舞われるが、それは来るべき大きな害悪、現に進行している破局、そしてあなたがた地球人の目前に迫っている驚愕^{きょうがく}の始まりにすぎない。まさにおよそ考えられる限りの事柄において一切がさらに悪くなり、世界中で発生する大量の環境難民の移動は変節して、ついには先進工業国ですでに起きていようような人種間の衝突を招く。そんなことはまだ見られないと言おうとも、実際にすでに起こっているのである。外国から自国にやって来るあらゆる種類の難民や移住者に対して、有害か

つ下品にも人種差別と人間蔑視に基づき宗教的に侮辱的な態度を取ることは地球のほとんどすべての国で見受けられるが、この点で最大の害悪は富んだ先進工業国で生じる。すでにかかなり以前から信仰の自由が侵されて信者は自由な権利を制限されているが、これにはあらゆる主要な宗教もしくはその代表も関与している。信者たちは自分たちの集会所や独自性が禁じられ、特定の衣服を着たり、信仰のシンボルや護符を身に付けたりすることも許されない。

これについて言えば、とりわけキリスト教の非常に多くの信者がテロを行い、他の集団や民族の信仰および信仰のシンボルを侮辱している。そして特にキリスト教では、他の集団をセクトと罵り、いかなる宗教的な信仰とも無縁だと主張することがごく当たり前に行われているのである。

つづく

(出典：FIGU 特別公報第 45 号)

ビリー著『真理の杯 (Kelch der Wahrheit)』の紹介

『真理の杯』の前書き

ハンス・ゲオルク・ランツェンドルファー

本書『真理の杯』により、新時代の真の預言者「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー、またの名をBEAMは、地球人ならびに地球外の人種および民族に再び非常に意義深い、まことに宇宙で唯一無比の書物を贈る。ビリーは最初、この表現豊かな堂々たる書物に 2017 年ごろ着手する予定であった。しかし重大な健康上の理由から、彼はこの極めて貴重で歴史的意義のある遺言書を、もっと早い時期に著わそうと決心した。冒頭の数行が書かれたのは 2007 年 8 月 19 日曜日である。それから集中的に書き続け、わずか 5 か月と 17 日後の 2008 年 2 月 5 日火曜日に完成させた。この 171 日間、我々の慌しく休まるところのない惑星から隠れ、ヒンターシュミットリュティのセミヤーゼ・シルバー・スター・センターに引きこもり、数多くの夜を経て、A 4 版 260 ページからなる画期的な草稿が誕生したのである。ビリーの^{あぐ}倦むことなき創造に一応の完結を見たにすぎないこの書物が製本された暁には、今日まで彼の手で生み出されたものの中で最も啓発的で心と意識を育む珠玉の文章が連綿と連なり、進化の輝きを放つであろう。この書物がこれほど短期間で誕生したことは、地球外の友人たちをも驚嘆させた。彼らはこれが完成するまでに数年かかると予想していたのである。この大部の本は合計 28 章からなる。『OM』(1988 年)と同様、構成および構造は単元(章)と番号を付けた文(節)からなり、言語的な表現形

式も類似している。

最初の 14 章は、それらの内容が数千年来象徴言語で記憶されている地球のメモリーバンクから、BEAMがその意識の力と、異例な能力と、そして深遠な知識とによって呼び出したものである。それは数十億年前のノコデミオンの原初の古い教えであり、彼の後に続いたエノクからモハメッドに至る 6 人の告知者によって、さまざまな紛れのない解釈が施され、この惑星地球上のそれぞれの時代の理解に応じて教えられ広められてきた。彼らの名前を挙げるならば、次に掲げる預言者である。(1) エノク(紀元前 9308 年 2 月 3 日～紀元前 8942 年 1 月 1 日)、(2) エリヤ(紀元前 891 年 2 月 5 日～紀元前 780 年 6 月 4 日)、(3) イザヤ(紀元前 772 年 2 月 7 日～紀元前 690 年 5 月 5 日)、(4) エレミヤ(紀元前 662 年 2 月 9 日～紀元前 580 年 9 月 3 日)、(5) イマヌエル(紀元前 2 年 2 月 3 日～紀元 111 年 5 月 9 日)、(6) モハメッド(紀元 571 年 2 月 19 日～紀元 632 年 6 月 8 日)。ここに挙げた 6 人の霊の教えの告知者は、直接この順序で互いに預言者の系譜を成し、霊形態が絶えず生まれ変わったものである。彼らの各々に、ノコデミオンの原初の教えをそれぞれの時代および生命の段階の地球人に告知し、能力の限りを尽くして後世に残すという重要な使命が課せられた。新時代の預言者と同様、彼らもまたそのミッションと使命において地球外の助言者や教師から支援され随伴された。人間の理解力は常に変化し、数千年の間に意識が絶えず高度に発展し、理性および悟性の思考が発達し、そして認識能力が成長してきた

ために、預言者たちは創造の法則と掟の教えを、そのつど新しい進化の状況に適合させ、それに相応して教えることが必要であった。彼らのミッションと彼らの出現以来約 11000 年の間、口頭および文字による伝承は、自然に与えられた生成と消滅の法則に従い、繰り返し忘却と物質的な崩壊に見舞われてきた。過去数千年間の預言者たちは今日に至るまで、霊の教えを後世のために記録し、または到達できるように保存する技術的な可能性が与えられていなかった。彼らの教えと説明は、あらゆる時代を通して今日に至るまで唯一宇宙のメモリーバンクに保存され、記憶されてきたのである。

一方で、『真理の杯』の意義と目的は、上に挙げた過去のそれぞれの時代における預言者の伝承と解釈を初めて形ある全作品として 1 冊の書物にまとめることにある。他方で、第 15 章から第 28 章に書かれた霊の教えは、しかるべき時に最近の 7 人目の預言者、すなわち新時代の預言者によって、新たに現代に合わせた理解しやすい形に書き表されることが太古より定められていた。それらの章の内容は、キーワードとテーマのみがメモリーバンクに保存されている。このような理由から BEAM はこの著作によりまたもや古来の定めの一つを実現し、ノコデミオンの教えを自分自身の書き加えによって拡大するという自発的な義務を果たすことになる。その際、彼は第 15 章も古い文語体で書き表した。

6 通りの解釈は、ノコデミオンの教えをそれぞれの時代や時期に合わせて更改することが、本来の意義と価値を改ざんし、歪曲し、誤解し、または喪失することなく可能であることをきわめて印象強く示している。そのための前提となるのは、創造の真理および創造の法則と掟に対する真の愛、自分自身に課す高い規律、自己責任、責任意識、畏怖と畏敬の念、そして本当の預言者が古来培ってきた真に高貴な性格である。同様に預言者の記録は言語的な観点からも、非常に興味をそそる時代の証言ともなっている。とうに忘れ去られたドイツ語の古い語法の概念が再発見されることにより、再び輝きを取り戻して用いられているのである。それらの概念は語自体が持つ強い力によって、この著作の書法および表現形式に特別の格調と優美さを与えている。たとえばきょうだ怯懦(臆病)、懇願(物乞い)、雅量(徳)、創成(形成)、

不均整(不調和)、両義性(懐疑)、霊内実(霊形態)、算計(予算)、聖賢(聖人)、形なきものの住处(あの世)、幻像(妄想)、恩愛(愛顧)、天の内界(宇宙意識)、利得(利益)、和合(調和)、自責の念(良心の呵責)などの概念が、きわめて貴重な本文に印象深い仕方で豊かな広がりを与えている。古代の預言者が創造を名付けるのに用いた概念が多様であることも非常に興味深い。本来の「創造」の概念の他に、造化、形成、根源、創出力、創造者、造物主、産出、造形、英知の源、創始などの言葉も見出される。本書があらゆる点で人間の意識、心および感情生活を形作るために、本当の真理が結実した純良な宝石であることは疑いない。それは霊の教えにおいて愛、音楽／歌唱、詩作、自然、満足、光および平和として挙げられている、あの心と意識を育む深遠な諸価値を具現化して統合し、直接新しい知識や貴重な洞察や進化した認識を育み獲得させる。どの個々の記述およびどの個々の文も、過去と現在の時間の旅で人間の意識と心に伴って、地球人を創造に基づく霊の教えの源へと案内し、いわゆるヘノク族の人々に自分たちの由来を辿らせる。彼らの教えの本質には、英知の 7 本の柱が隠されている。それらは愛、真理、正義、知識、首尾一貫性、畏怖(畏敬)、栄光である。これらの英知の柱はまた人間の根本的な 7 つの力、すなわち強靱、理性、悟性、克己、自制、貫徹、大胆に栄養を与える。これらは教義書簡 31 号に掲載された BEAM の霊の教えの中でも挙げられている。彼の著作の旅では、「宝の番人」(エドゥアルト)がすべてのページに随伴するので、創造の進化および真の人間の秘密が正しく開示され、人生の意義、使命および目的に関する秘密が公然と解き明かされる。

本書においても、霊の教えの意識を育む高い品質と価値は、多数の秘教、カルト宗教、哲学およびイデオロギーの謬説や邪説からきわめて印象強く峻別しゅんべつされる。世界は正しく識別され、論理的であり、その解釈は検証可能で、吟味に耐え、そして証明力がある。非常に深遠な創造の真理は、その単純で説得力のある明解さに輝いているが、それに反して謬説は理解できないほど複雑で混乱している。

次号につづく

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 3月に講演会が開催されます □

日本の読者の皆様にはすでにお馴染みになりました、FIGUスイスの基幹会員シュテファン・リッカウアー氏、シモーネ・リッカウアー氏による講演会が、来る3月15日(日)に開催されます。『真理の杯』に関する興味深い講演テーマ等が予定されています。また、全国の読者の皆様が互いに交流することができる貴重な機会となりますので、どうぞ奮ってご参加ください。なお、会場手配の都合により、参加を希望される方は、事前にフィグ・ヤーパンまで、葉書、FAX、メール等でお申し込みください。その際には、懇親会の参加希望につきましても併せてお知らせください。多くの読者の皆様からのご参加のお申し込みを、フィグ・ヤーパン一同心待ちにいたしております。

□ 『真理の杯』 翻訳出版支援のお願い □

FIGUスイスが各国語に翻訳すべき最も重要な書籍として、翻訳を奨励している『真理の杯』につきまして、今後も本誌『フィグ・ヤーパン通信』等でご紹介する予定です。本書の円滑な翻訳出版を進めるために、フィグ・ヤーパン(ドイツ語から日本語への翻訳)及びFIGUスイス(ドイツ語から各国語への翻訳)では、翻訳出版のご支援をお願いしております。FIGUスイスへのご送金につきましては、以下の情報を最寄の金融機関にお持ちいただきまして、窓口にてお尋ねください。

□ 今年の出版予定 □

今年は例年に増して出版する書籍が目白押しです。まず2月に、『宇宙の深遠より一プレアデス/プレヤール人とのコンタクト』を出版いたします。本書は、2001年の初版(徳間書店刊)を改訂した第2版です。春以降には、『アラハト・アテルザータ』、『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(5)』の2冊の新刊書を出版いたします。以上の3冊の書籍は、いずれも水瓶座時代出版から出版されます。さらに、2004年7月に新風舎から出版されていまして『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』の第2版を文芸社から再版する準備を進めています。これらに加えて、本誌でも「前書き」の一部を掲載しました、『真理の杯』の翻訳を開始する予定です。本書に関しては、FIGUスイスにおいても、世界の各国で翻訳出版すべき最も優先度の高い重要な書籍として扱われております。

一冊の書籍を世に送り出すためには、2名の翻訳者による翻訳、フィグ・ヤーパン及びボランティアスタッフによる校正、版下の作成と確認、印刷、在庫管理と注文受け、発送等の多くの工程が必要です。これらはフィグ・ヤーパンのスタッフを含めてすべてボランティアで運営されております。すべての作業を滞りなく進め、一冊でも多くの書籍を出版できますように、読者の皆様にはご理解と暖かいご支援を引き続きくださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

『真理の杯』 翻訳出版のご支援はこちらをお願いいたします

《 日本語への翻訳寄付あて先 》

郵便振替

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

《 英語その他の言語への翻訳寄付あて先 》

Account Number: 21281.25

IBAN: CH26 8137 8000 0021 2812 5

Note/comment: «Book Translation»

(«Kelch der Wahrheit» and in general) for FIGU

Freie Interessengemeinschaft

Bank: Raiffeisenkasse Bichelsee-Turbenthal

Geschäftsstelle Turbenthal

Bahnhofstrasse 6

CH-8488 Turbenthal

BC-No.: 81378

Raiffeisen Schweiz

Raiffeisenplatz, Postfach, 9001 St. Gallen

Swift: RAIFCH22

※外国送金につきましては、最寄の金融機関にお尋ねください。

出版物のご案内

- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)
価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)
価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)
価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)
- 心
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- 瞑想入門
価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)
- わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)
価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)
- 生命の哲学
価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)
- 日本語版 水瓶座時代の声
価格 各 1,000 円 (税込)
83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)
- 第 235 回会見
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 霊と肉体における生
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- ビリーの少年時代の著作
価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
- 預言者エレミヤとエリヤの予告
価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)
- エノクの預言
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 『瞑想入門』の手引き
価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 2007 FIGU スイスセンター訪問 (DVD)
価格 3,000 円 (税込 送料別 85 グラム)
- 『切なる願い』DVDビデオ版 **新刊!**
価格 2,000 円 (税込 送料別 110 グラム)
- 瞑想用携帯ピラミッド(平和瞑想に関するDVD付)
価格 28,000 円 (送料・税込)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 37 号 (無料)

発行日 2009 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2009 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.